



2018 韓国姉妹校「ミチュホル外国語高等学校」交流報告！（速報）

3月24日から27日にかけて、本校の韓国姉妹校である「ミチュホル外国語高等学校」との交流が行われました。昨年の10月には、ミチュホル生10名が日比谷高校を訪れ交流を行いました。今回は日比谷生が現地へと赴き交流を行いました。現地での交流は今回が記念すべき第1回目ということになります。

ミチュホル外国語高等学校の生徒のみなさんから、そして教職員の先生方から心温まる歓迎をいただき、さらにさまざまな交流のメニューをご用意いただいたことで、初の交流活動も大変充実したものとなりました。濃密な授業や活動を通して、両校の絆がさらに深まりました。

全行程を通して好天に恵まれ、朝晩は多少冷えましたが快適に過ごすことができました。今号では、この交流の一部をお伝えします。

① 羽田空港出発&金浦空港到着

朝6時40分という早い時間でしたが、誰一人遅れることなく集合しました。旅行会社の方から最終的な注意点などを伺い、出国手続きを行い、搭乗しました。フライトは2時間30分ほどで、時差もないため、大きく消耗することなく金浦空港へと到着しました。空港では、ミチュホル外国語高等学校の先生方2名が待っていてくださり、お出迎えをしてくださいました。専用バスに乗り、ミチュホル高校へと向かいました。約1時間の移動でしたが、韓国の街並みを堪能し、これからの交流活動の期待が高まりました。

② 校門での温かい歓迎、そして感動の再会！

土曜日の訪問にもかかわらず、たくさんの生徒が出迎えをしてくれました。実は出迎えをしてくれたのは、今年受験を控えた3年生のみなさんです。ミチュホル高校は全寮制で、通常は金曜日の授業後に生徒は自宅へ帰るのですが、3年生は受験勉強のために土曜日にも学校にいる生徒もいるのです。受験勉強の手を止めて、寒い外で待っていてくれたのです。

待っていてくれた生徒たちの中には、昨年10月に日比谷高校に来てくれた生徒たちがほとんどいてくれました。ひさびさの再会にみんな手を取り合って喜びました。生徒たちだけではなく、引率した校長先生や中村先生にまで丁寧にあいさつをしてくれました。

③ 到着時の歓迎会

土曜日に到着して、学校にいる生徒たちで歓迎会を開いてくれました。先ほども書いたように多くの3年生が貴重な時間を使って歓待してくれました。用意していただいた食事やお菓子を楽しみながら、旧交を温めたり、互いの学校のことなどについて語りました。

ミチュホル高校の生徒の中には上手に日本語をしゃべる生徒もいましたが、主にコミュニケーションは英語によるものでした。両校の生徒とも英語力が高いため、意思疎通には大きな問題がなかったようです。覚えてたのハングルなども駆使しながら、一生懸命話す姿が印象的でした。



会に先立って、この交流活動を担当してくださっているジョン先生から、「日比谷高校との記念すべき交流活動が実現しました」というスピーチにとっても感動しました。

④ ホストファミリー宅へ

歓迎会終了後、待っていてくださったホストファミリーの方々とホームステイ先へと移動して行きました。渡航前にメールなどでのやりとりはあったものの、初対面であるので緊張するかと思われましたが、ホストファミリーの方々がとても気さくに接して下さるので、全員笑顔でそれぞれの滞在先に向かいました。

⑤ 歓迎レセプション

土、日曜日とホストファミリー宅で過ごし、月曜日にミチュホル外国語高等学校で一日を過ごしました。まずは学校をあげて素晴らしい歓迎式典を開いてくださいました。

司会の2人の生徒が、日本語とハングルで交互に式を進行してくれました。パワーポイントを駆使して、スピーチの翻訳を示しながら、両校の校長のスピーチや生徒代表のあいさつが行われました。他の生徒のみなさんも会を盛り上げてくださり、感動的な雰囲気でした。

感動的な歓迎公演

歓迎レセプションでは、あいさつなどの他に「歓迎公演」を行っていただきました。本校にミチュホル高校の生徒が来てくれた際には、校歌を合唱部を中心に披露しましたが、今回は何と10月に日比谷高校に来てくれた生徒たちが、それぞれ楽器を担当して演奏や歌を披露してくれたのです！3年生の受験勉強の合間を縫って、用意してくれたとのこと。これには日比谷生たちも込み上げるものがあつたようです。本当に感動した瞬間でした。

⑥ 授業への参加（一部紹介）

ミチュホル高校の先生方のご協力で、体験型の授業、ディベート型の授業、協働作業型の授業などさまざまなタイプの授業を経験させていただきました。

総じて、ミチュホル高校の生徒は向学心が高く、積極的で、表現力が豊かでした。日比谷生も初めての環境の中で何とかついていくことはできたようですが、ミチュホル校生の授業への積極的な態度や発信力の高さに刺激を受けたことと思います。

(1) 日本語コース「日本語」

ミチュホル高校ならではのネイティブの先生による日本語の授業。教科書で学んだ内容が写真のカードになっており、先生がヒントを読み上げてそのカードを選ぶ、というかなり難易度の高い活動。例えば、「新鮮な牛乳で作られたクリームが使われている北海道の有名なお菓子は？」や「福島県にある『つ』で始まる有名なお城は？」という質問をナチュラル・スピードの日本語で聞き取り、それぞれ「バターサンド」と「鶴ヶ城」が示されている写真を選ぶというもの。日本に住む我々にとってもかなり難しいものもありました。

(2) 美術(書道)

美術の授業では書道の授業を受けました。扇子にハングルで「ミチュホル外国語高等学校」と書き、その下に自分の好きな言葉、そして自分の名前を赤で書く、というものでした。最初は半紙で練習をしました。慣れないハングルを書くのは大変でしたが、お手本を見ながら、先生の助言を聞いて何とか書くことができました。日本の書道と共通する部分があるのですが、細い筆で繊細さがより要求されるため、かなり大変でした。字の大きさや一つ一つの文字の間隔をうまく取ることに苦労しました中には韓国の生徒とセンスを交換する生徒もいました。

(3) 英語(ディベート活動)

日比谷高校にも JET の先生がいらっしゃいますが、ネイティブの先生とのティーム・ティーチング形式の授業でした。日比谷高校でもすでに通常の形式になっていますが、授業の最初からグループで議論ができるように机が並べられています。今回のトピックは、「国連の有効性の有無は？」というものでした。生徒たちはあらかじめこのトピックに関する英文を読んでおり、それをもとにディベートをするという形式です。突然の参加にもかかわらず、日比谷生も議論に積極的に参加していました。それにしても、ミチュホル生の「話そうとする姿勢」には感動しました。

(4) 体育

体育は体育館で行われました。変則的なルールでのバスケットボールが行われました。ドリブルはせずボールを受けたらすぐにパスを出す形式で、バスケットに入れるのではなく、エンドゾーンに入り込むとポイントが入るといふものです。日比谷高生がミチュホル高生のチームに入り、対戦式の授業でした。互いに協力をしながら楽しい時間を過ごせました。

(5) 数学

数学の授業もグループ形式で行われ、ディスカッションや協働作業をとおして行われていました。授業の内容自体はとても難しく思われましたが、グループで助け合いながら行うことで、全員が授業に熱心に参加していました。この時間は立方体にさまざまな多面体をピッタリ合うように入れていく、というものでした。突然の参加にも関わらず、スピード対決で何人かの日比谷生が一番になりました。このようにグループで行うアクティブ・ラーニングが全体的に取り入れられていることが印象的でした。

⑦ 仁川経済自由区域(IFEZ)についての学習 (G-Tower にて)

最終日には、ミチュホル高校より専用バスで「G-Tower」を見学しました。33階に登り、韓国が国をあげて取り組んでいる経済政策である仁川経済自由区域(I F E Z)についての解説を聞きました。説明はすべて英語で行われ、専門用語が使われながらも、日韓両校の生徒とも充分理解できているようでした。両校の生徒の英語力の高さが伺えます。IFEZとは、北東アジア経済域において、中心的な役割を持つ地域として、2003年8月韓国で初めて仁川国際空港と港湾を含む松島、永宗、青羅地区に計132.9㎢が指定されました。

⑧ 遊覧船と昼食会

交流の最後は、ホームステイ先のミチュホル高生のみなさんと遊覧船に乗り、街並みを堪能しました。船内では記念撮影を行ったりなど、ずっと前から知り合いであったかのように打ち解け、意気投合する姿が見受けられました。最後はみんなで昼食を食べながら、最後の交流を楽しみました。

⑨ 充実した交流活動そして再会の約束

短い期間でしたが、ミチュホル外国語高等学校の生徒のみなさん、教職員の方々、関係者の方々の尽力で、素晴らしい交流活動となりました。互いを尊重しながら、礼儀正しく交流を深める両校の生徒たちにとっても感動しました。生徒同士もさまざまなことを交換し、互いの絆を深めたにちがいないと思います。